

一般演題 高気圧酸素治療の臨床② OP6-1 骨接合術後より発症した上腕骨慢性骨髓炎に対して高圧酸素療法を用いた治療経験

○仁丹克則

松原徳洲会病院 整形外科

【背景】

慢性骨髓炎に対して関節鏡視下デブリードメントを併用した高圧酸素療法で広範囲外科的切除が回避でき患部温存治療が可能であった症例を経験したので報告する。

【症例】

66歳，女性。

【現病歴】

60歳時に右上腕骨頸部骨折に罹患し経皮的鋼線固定術を施行され術後感染に罹患，術後3ヶ月で鋼線を抜去し感染は鎮静化するも，当院受診5ヶ月前に重量物を持ってから疼痛出現，以後から持続する愁訴にて近医受診。関節の腫脹を認め，関節穿刺にてMSSAが検出，化膿性肩関節炎の診断にて加療目的で当院へ紹介来院となる。来院時の血液検査ではCRP 0.63mg/dL，WBC 6000，MRIにてT1でisoからlowの混在する信号変化を骨髓内に認め，皮質骨において不整を認め，T2では軟部組織および骨内に広範囲での高信号域を認めた。全身麻酔下に関節鏡視下滑膜切除及びデブリードメントを施行。術中に採取した骨片を病理検査に提出，病理結果にて骨組織の変成及び腐骨化を確認。術後よりCEZを点滴で2日間投与，以後は内服でMINOを投与，術翌日より高圧酸素療法を骨髓炎の診断で2.0ATA，加圧時間20min，治療時間60min，減圧時間15minを30回施行。引き続き重症軟部組織感染症の診断で2.0ATA，加圧時間20min，治療時間60min，減圧15minを10回施行。最終経過観察時における血液検査で炎症反応の上昇を認めず，関節穿刺液培養で菌の検出を認めず，MRIにて感染ならびに骨髓炎を示唆する信号変化を認めず，肩関節に関しても良好な機能回復がみられた。

【考察】

本症例では広範囲の切除が検討されたが，関節鏡視下デブリードメントを施行した後の高圧酸素治療による静菌作用，抗菌薬作用増強，虚血性軟部組織の創傷治療促進，骨吸収ならびに骨形成の促進といった作用にて感染が制御できたと思われた。

【結語】

慢性骨髓炎の治療に対する高圧酸素治療は有効な手段と思われた。